

ドンドヤで 無病息災を 祈る



地域をあげて大どんどや 野尻北部地区 1/12

1月11日から15日にかけて、今年も各地区では「ドンドヤ」が行われました。これは無病息災を祈る伝承行事で、高く炎が燃え上がるほどにその年は良い年であると言われるもの。1月12日の日曜日、野尻北部地区(旧河原校区)でも旧河原小学校のグラウンドでドンドヤの火が高く燃え上がりました。(野尻北部地区体育・文化振興会と河原地区子ども会が共催)この日は東中や東小、河原保育園の子どもたちからお年寄りまでみんなが参加。高さ10m以上もある竹に火が入ると「パン・パン」と竹が割れる音が鳴り響き、大きな歓声があがりました。その後は餅を焼いたり、地域婦人会の皆さんのぜんざいに舌づつみを打ちながら、交流の和が広がっていました。

町民憲章

1. 水と緑と土のにおい、いっぱいの住みよい町にします。
2. 伝統を重んじ、文化の薫る潤いのある町にします。
3. 老人を大切に、子どもの夢を育て幸せな町にします。
4. 勤労を尊び、産業を振興し活力のある町にします。
5. スポーツに親しみ、心身をきたえ健全な町にします。



平成9年2月5日発行

いつもにこやか
有森さん



会場の皆さんと気軽に握手

いつも笑みを絶やさない有森さん。その温かさは有森さんの優しい心そのままだと強く感じました。そして、会場の皆さん一人ひとりの心に明るい灯をともしたようです。

有森裕子さんが来町 子どもたちと交歓・交流



新年早々の1月6日、皆さん良くご存知の女子マラソンの有森裕子さんが本町を訪れました。これまでも有森さんの高森での練習はたくさん。この日も急ぎよ来町されたもので、「合宿などでお世話になった高森の皆さんにあいさつを」と本町へも表敬訪問。忙しいスケジュールの中にも子どもたちの質問に答えていただくこととなり、学校関係に周知してこの日は中・高校の陸上部などのたくさんの子もたちが、高森中学校体育館での「一問一答」会に参加しました。

有森さんはバルセロナオリンピックでは銀メダル、アトランタオリンピックでも世界の数ある強豪を押さえて銅メダリストとなり、様々な苦勞があったゆえにゴール直後の「初めて自分をほめてやりたい」の言葉は、世界中の人々に大きな感動を与えました。

有森さんは「苦しい時も高森の練習があったからこそ、今の私があります。」と話しながら、建設が始まった国体メイン会場に飾り付けるための「記念の足型」にも快く協力をいただきました。

有森さんとの一問一答から

交歓会会場となった高森中体育館には町内の各学校の陸上部の子どもたちばかり、たくさんの方が集まり、いろいろな質問が寄せられました。

問 陸上を始めたきっかけは?

答 自分に出来るものは何だろうといつも考えていました。

中学時代に八百mに出場して優勝したとき、もしかしてこれが私の出来ることかなと思ったことがきっかけですね。

皆さんも自分にしかできないと思えるような、自分に合ったもの、自信を持てるものを早く見つけてください。

問 陸上の練習方法は?

答 どれだけ走るといふ距離は関係ありません。問題は自分の目標をしっかりと持って、それをやり遂げることです。

問 レースでもいつもにこやか有森さん。走っている時は何を考えていますか? また、つらいときは何を考えてのりこえますか?

答 私もしつこい時はあります。そんな時、皆さんの応援やあどけない子どもさんの表情などを見ると自然と力が湧いてきます。もうやめようと思うこともありましたが、でもそんなときは「せつかく」という言葉を思い起こすようにしています。

ます。せつかくこれまで頑張ってきたのだから、物事を良い方向に考えるプラス指向の気持ちを、常に前進することが大切だと思います。

問 小さいとき、何になりたかったですか? また、運動は何でも好きですか?

答 学校の先生、特に体育の先生になりたかったです。それは私を理解し、心身ともに成長させていたいただいたのが、その時の体育の先生だったからです。

スポーツは何でも好きですが、やっぱりマラソンが一番好きですね。

問 アトランタ大会から帰ってきて、お母さんは何と書いて迎えてくれましたか?

答 私以上に母はつらかっただろうと思います。やめたいと言われ、いつでも帰って来いと言われていました。帰ると「お帰り」と言ってくれました。ただそれだけですが、私には充分過ぎる温かい言葉でした。

私にはこれまでつらいことが色々ありました。でも、皆さんの励ましがあったからこそ、今の私があると感じています。皆さんの応援をよろしく願います。

PUBLIC INFORMATION





祝高森町成人式



燃えろ 若きやもん！



祝 成人



成人者代表宣誓

工藤 智宏 (芦口・J A阿蘇南 草部南部支所勤務)

「私たちを祝うために、本日このように盛大に成人式を挙行いただき感謝申し上げます。大人となる自覚を胸にして、高森町の発展に尽くします」と力強く宣誓。

成人者 一人ひとり 決意を胸にして



成人者を代表して町から記念品を受け取る田上美智瑠さん (昭和・福岡工業短期大学2年生)

今年の抱負として、「これからはコンピューターが益々普及する情報化社会となります。卒業したら熊本に帰り、情報処理の仕事につきたいと思っています。」と語っていただきました。

心新たに新年を迎えた一月三日午前十時、今年も町成人式が林業総合センターで盛大に開催されました。
今年、町で成人式を迎えたのは百十名。高森町で仕事に励む人や熊本市や遠方に就職、就学している人など、正月の帰省者を含めてたくさんの成人者が集いました。
来賓各位や今村町長などから「成人となれば自由になる面があり、また大人としての権利が発生しますが、その分、人として当然果たさなければならぬ義務や責任も生じます。人格を磨き、若い力を社会で生かしてください」と激励。成人者一人ひとりが、あらためて大人となる決意を胸にしていたようでした。
これからは現状を正しく分析判断し、具体的な対応策や目標をしっかりと持って、バイタリティーあふれる若い力で明るく楽しい社会づくりに貢献していただきたいものです。

晴れやかに

成人式



甲 斐 ゆかり

(下切・熊本厚生病院看護助手)



住 吉 竜 次

(色見・高森温泉館アルバイト)

成人式を迎え、社会の一員になったという誇りと喜びも感じますが、私たちは人生経験もなく、いろんな困難にくじけてしまふことがあるかも知れないという不安もいつぱいあります。人間は一人で生きていくことはできません。私も大人としての責任をきちんと果たし、地域や社会に交わり貢献しながら、悔いのない人生を歩みたいと考えています。皆様方のお導きとお力添えを、どうぞよろしくお願い申し上げます。



色 見 知 子

(高森・熊本大学薬学部2年)

私は薬学を学んでいます。世の中には色々な病気があり、薬剤師の役割は患者さんの回復への手助けをすることにあります。しかしこれは命に直接関わる仕事であり、その責任は重いものと、常に肝に銘じておかなければなりません。大人になることはこのように社会に貢献して責任を果たすことだと思っています。成人として、また薬剤師としての自覚をしっかりと持ち、たくさんの方の命を救うために頑張ります。



田 上 純 一

(尾下・県立農業大学校2年)

年を増す毎に、農業を取り巻く環境は益々厳しい状況におかれています。私は今、農業大学校で農業の基礎から学んでいます。難しい面も多々ある農業ですが、私は農業経営者としてこの農業に真正面から取り組んでみたいと思っています。そして、町の基幹産業である農林業の発展からのまちづくりに力を尽くしたいと考えています。

各地区代表 成人者 意見発表 (抜粋)



議会だより

Minutes from Town assembly meeting

議決されたおもなもの

平成八年 第四回定例会

教育委員会委員の選任について

死去された児玉光則氏の後任として、本田英明氏（大字矢津田）を任命することについて議会の同意が得られました。

一般会計補正予算

衛生費として、最終処分場中部清掃センター加入負担金に三千二百二十一万一千円、土木費の道路新設改良費として四千万円の補正など、他の経常経費との増減により、総額四

千二百四十七万八千円を補正して、予算総額が五十一億五千二百五十五万四千円となりました。

平成九年三月十四日をもって任期満了となる次の方々の法務大臣への再任推薦について、議会の同意が得られました。
岩下敬公氏（大字色見）
馬原清二氏（大字津留）

国民健康保険特別会計補正予算
保険給付費として三百二十七万七千円、予備費の増額に一千八百七十七万六千円など、経常的経費の増減により総額二千四百九十二万五千円を補正して、総予算が八億二千七百六十万円となりました。

簡易水道事業特別会計補正予算
国庫補助の減額のため、止むを得ず新設工事（六千九百六十万円）の中止などにより、総額七千五百一十一万一千円を減額して、総予算が二億四千七百七十九万四千円となりました。（減額した工事費については平成九年度事業として実施）

工事請負契約の締結について
平成十一年に本町で開催される国体テニス競技のメイン会場となる高森町民体育館建設に係る各種工事の請負契約の締結について、議決されました。（この金額等の内容は十九ページに掲載）

人権擁護委員の推薦について
平成九年 第一回臨時会

基金残額（七年度末現在）

自治体基金
四億七千七百三十三万二千八百三十二円

住民基金（五ヶ町村合計）
九千六百六十六万八千八百

平成八年度高森町鉄道経営対策事業基金特別会計補正予算
南阿蘇鉄道損失補助を目的に、既定額七百五十一万七千円に九百三十一万一千円を補正して、予算総額を一千六百八十二万八千円とすることになりました。

なお、基金の状況は次のとおりです。南阿蘇鉄道の経営状況（昨年七月号で既報）については依然として厳しい状況にあり、経営欠損への自治体基金からの補填額累計（平成七年度末で四千六百二十八万三千八百八十九円）も年々増加しています。南阿蘇鉄道でも誠意努力を積み重ねておりますが、皆様方の利用拡大などへの協力をよろしくお願いいたします。

自治体基金

四億七千七百三十三万二千八百三十二円

住民基金（五ヶ町村合計）
九千六百六十六万八千八百



高森町消防団

消防団

今年も 町を守り 人を守ります

出初め式

今年も一月七日の火曜日、寒風をついて、恒例の高森町消防団出初式と通常点検競技が盛大に開催されました。

午前八時半、高森駅を出発した全団員三百四十五名は阿蘇広域消防本部のラッパ隊を先頭に誇らしく堂々と行進。沿道の皆さんの注目を集めていました。

今年も多年にわたる勤続消防団員表彰や別所の堤での一斉放水があり、通常点検（競技）では高森中学校少年消防隊と高森幼稚園の幼年消防クラブも参加。一生懸命に練習した成果を披露して、大きな拍手が寄せられていました。

本町では昨年末と年明け早々と十五日までに、残念ながら住宅火災三件と林野火災一件が発生。出初め式でも、今村町長や塚本消防団長は「火事は一瞬にして尊い生命、財産を奪ってしまう怖いもの。防火、防災の意識を団員はもちろろん、住民の皆様も強く持つていただきたい。」とのあいさつがありました。

通常点検審査結果

一位 十二分団（大字尾下）
二位 二分団（芹口・菅山・草部の一部）
三位 九分団（色見）



町内の14の分団345名の団員が誇らしく堂々と分列行進。また、高森地区の町駐在員さんも行進に参加。今年は阿蘇広域消防本部ラッパ隊の吹奏協力を得ました。



年頭の出初めの式に花ぞえる 高幼稚園のかわいや足どり

この短歌は「TT」という方から昨年投稿いただいたもの。もう一句「出初式 かたことまじりで指揮をとり まといなびかす高幼稚園」もいただきました。昨年本誌2月号掲載に間に合わず、本年掲載させていただきました。ありがとうございました。



消防なんでも南部分署

こんなときどうする？ 知っておきたい消防のコツ

石油ストーブから火が出たら？

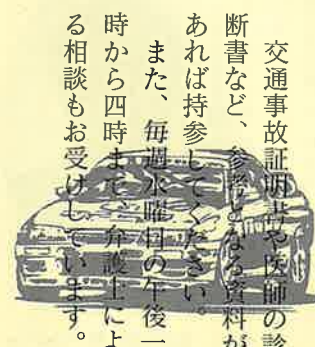
◇すぐに消火器を使用する ◇消火器がないときには、シーツや毛布をかぶせてその上からすぐに水をかける ◇灯油がこぼれて燃え広がったときも、シーツやコタツ布団をかぶせれば火を抑えることができるのであわてないこと

いざというときの心がまえ

(5) 日頃から「もしも火災が、事故が、災害が起きたら…」と危機意識を持ち、できる限りの用心や対応をしておくことを危機管理といえます。



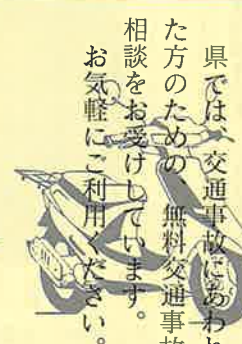
阿蘇広域行政消防本部
Tel 2-9034



TRAFFIC SAFETY 県庁2階 交通事故相談所

Tel.096-384-2372

月～金の午前9時から午後4時まで（土、日、祝祭日、年末年始を除く）



県では、交通事故に悩む方々のための無料交通事故相談をお受けしています。お気軽にご利用ください。



カリスベル市内の閑静な住宅街。ペンションみたいな、
かわいい家がたくさんあっていました。

人権尊重の優しい人づくり・まちづくり

実体験から学ぶ 認め合い助け合う心

外国を特別な目で見ない 気軽な交流

まわりの次代を担う子どもたちの視野を広げ、真の国際人を育てようと、町では本年度から海外ホームステイ事業（モンタナ州カリスベル市）を始めました。今年はこの研修に中学生二名と高校生三名が参加し、それぞれに心を通わせる有意義な研修が行われました。人ひとりが感じたレポートを、昨年十二月号から掲載しています。

まず最初にこの「カリスベル派遣研修」に行かせてくれた両親、地域の方々そして町と教育委員会の皆さんにお礼を申し上げます。その一つに昨年度、私の家にホームステイしたアンナが言った言葉：「高森はモンタナと風景も気候も似ているが、日本はジメジメしている。モンタナの大平原も素晴らしいから来てね」も、行ってみて本当にそうだと感じました。気温は日本と変わらないのですが、カラッとしていて、暑さを感じないのです。水はおいしいし、とっても広く心も大きくなるようで、住みやすいだろうなと思いました。

アメリカも色々な気候があるし、その土地土地ごとに異なる風習や文化があり、一面だけで判断はできませんが、モンタナのどこまでも続く大平原は、私の生涯をとおして忘れられない素晴らしい思い出となりました。

今まで日本から外に出たことがない私。アンナの言葉の意味が実際に行ってみて、これらのことが実感として理解できたのです。もう一つはモンタナの文化や生活について興味を持って参加しました。これもやっぱり実体験からしか学べません。

映画などでは見ていた道路の「人は左、車は右側通行」も初めて見ると不思議な感じがしましたし、アメリカはモンズーンが多く、家が吹き飛ばされる被害が多いので、行政の指導として地下室を作ることが義務づけられていることなど初めて聞くこともたくさん。他にもホームステイでお世話になったマイク、ジェニー・ラデルご夫妻（昨年度福永光三君宅にホームステイしたマート君宅）一家はもちろん、行く先々で会った人々との交流から多くのことを学びました。

今回の研修で日本では感じる事ができないものを、自分自身を見つめ直すこともできて、視野を広げながら新しい知識と、人として知るべき教養も身につけることができました。二十世紀はもう閉鎖。こういう交流はもっと増えて、当たり前になるだろうと思います。日本人が不得意と言われる国際交流。それは外国を特別な目で見ない気軽な交流と相互に理解し合う心が大切だということであり、そのためにはこういった異文化の体験と交流が欠かせないと強く感じました。

わずか一週間の滞在ではありましたが、マイクさん一家と心をふれあわせることもできて、別れはとってもつらいものがありました。この素晴らしい体験を多くの人に語り伝えながら、いつになるかわかりませんが、今度は一人でモンタナに足を運びたいと思います。ありがとうございました。



高森高等学校 三年
三井 恵美



ホームステイでお世話になったマイク・ラデルさん一家（子ども5人）と記念撮影。（三井久恵さんと同泊）

International Relationship 国際交流

町海外ホームステイ事業 中・高校生カリスベル研修レポート

その3

まず最初にこの「カリスベル派遣研修」に行かせてくれた両親、地域の方々そして町と教育委員会の皆さんにお礼を申し上げます。その一つに昨年度、私の家にホームステイしたアンナが言った言葉：「高森はモンタナと風景も気候も似ているが、日本はジメジメしている。モンタナの大平原も素晴らしいから来てね」も、行ってみて本当にそうだと感じました。気温は日本と変わらないのですが、カラッといて、暑さを感じないのです。水はおいしいし、とっても広く心も大きくなるようで、住みやすいだろうなと思いました。

アメリカも色々な気候があるし、その土地土地ごとに異なる風習や文化があり、一面だけで判断はできませんが、モンタナのどこまでも続く大平原は、私の生涯をとおして忘れられない素晴らしい思い出となりました。

大韓民国から アンニョンハセヨ

本町など南阿蘇六カ町村で積極的に進めている、「百済青少年の星」との交流。今年も十二月二十一日から二十三日までの二泊三日間、同会の役員十五名と小・中・高校生四十八名が南阿蘇を訪れて、まさしく寝食を通しての交流が進められました。

今年、本町のホームステイ受け入れは、村上公夫さん（色見）、三井清さん（上町）、若下茂巳さん（昭和）、本田恭輔さん（矢津田）、後藤秀希さん（天神）の五軒に各二名ずつの十名。皆さんは歓迎の気持ちで当然ながら、食事など日頃の生活そのまを覚えてもらおうと「外国の人を特別な目で見ない、構えないそのまの交流」を進められました。また、子どもたち同士は言葉の違いは関係ないように、身振り手振りでも楽しく交流。子どもたちからも「国は違ってもファミコンなどの遊びの興味は同じだと思いました。でも韓国の子どもたちは手伝いや勉強もよくしているようで感心しました。」などの受け入れた感想を話していました。

例年に変わらぬ心の交流が進められ、同会の李寅行（イ・イネン）団長は「実際の交流から、子どもたちも日本を良く理解しようです。毎年のこの交流の積み重ねが、日韓両国の益々の相互理解と協力関係につながっていくことでしょう。」と話していました。



高森関係者だけの記念撮影。一番左が「百済青少年の星」の李団長。

「百済青少年の星」紹介

青少年の健全育成を目的に、地域づくり・人づくりに積極的に貢献。子どもたちの幅広い人格形成を目的に、この国際交流事業やボランティア活動を積極的に展開し、文化や自然の保護などにも力を入れている。

オーストラリアから ホームステイ

本町には民間同士の国際交流もたくさん進められています。その一つとして、12月15日から1月15日まで、オーストラリアからカトリーナ・フランシスさん（高1）が竹原珠里さん（高森中3年）（昭和・竹原秀喜さん）宅にホームステイしました。これは国際交流団体「ラボ」が企画したもので、日本の文化風習などを実生活から学ぼうというもの。

竹原さん宅は珠里さんもアメリカにホームステイしたり、これまでも県が進めている「ロッキーマウンテン」の交流事業などで外国の人のホームステイをたくさん受け入れられるなど、国際交流を普通のこととして実践されています。

珠里さんのホームステイ受け入れの感想

同年代の女の子ですからとても気が合いました。たまに、考え方の違いでぶつかったこともありましたが、とても楽しかったです。オーストラリアは今は夏。暖かい季節からいきなり冬の日本にきたのですから彼女の体調が一番心配でした。「アイラブ着物」とはしゃぎながら、着物を着ての初詣と高森温泉館に入浴。向こうでは水着を着て入るのが普通なので勇気がいったと思います。また、正月の餅作りなど日本の伝統文化にも触れてもらえたと思います。

今回のカトリーナとの交流で、異文化とのふれあいはとても大切だと感じました。カトリーナとも国を越えた友達として、ずっと仲良くしていきたいです。今からこういった交流をたくさんして、私も視野と心を広げたいと思います。



カトリーヌさんの高校のペナント



高森中学校の理解協力により、授業にも参加し、
休み時間にも気軽な交流が進められていました。



郵便局からのお知らせ 国民年金・厚生年金・船員保険年金を新たに受けられる皆様へ
年金が裁定されたときは、一回目のお受け取り金から、通帳（「ばるる」）による、自動受取りができるようになりました。●社会保険事務所に提出する年金の裁定請求書に、あなたご自身の通常郵便貯金通帳の記号番号をご記入ください。●平成九年一月から年金の裁定請求をされる方が対象となります。

国民年金だより

サラリーマンの奥さん必読！

- ◆第三号被保険者の届け出をしていなかった方
- ◆遅れて届け出された方
- ◆届け出をしたかどうかわからない方
- ◆配偶者が転勤したときなどに種別確認届をしていなかった方

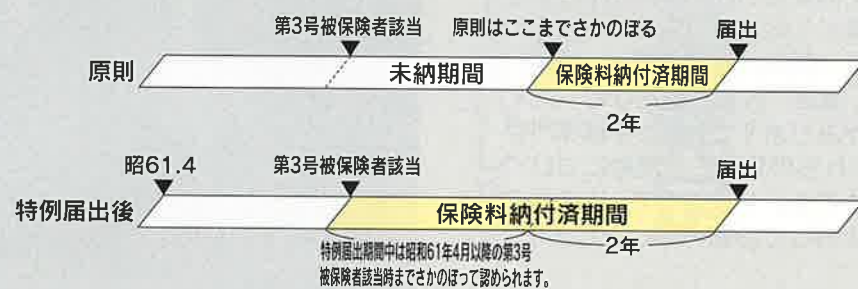
◆扶養されている配偶者で、次の方は至急国民年金係までご相談ください。

◆届出が遅れた場合
原則として二年前までさかのぼって保険料を納めた期間とされますが、それより前の期間は「第三号被保険者の未納期間」となり、将来受ける年金額が減額されたり、年金が受けられなくなることがあります。そこで、平成九年三月三十一日までの期間中に届出を行えば、二年前までに限らず、昭和六十一年四月以降の第三号被保険者の未納期間が納付期間とされ、将来受け取る年金の額に反映されます。この特例届出はすでに年金を受けている人も対象となります。

◆厚生年金や共済組合に加入されている方に扶養されている配偶者は、国民年金の第三号被保険者になります。第三号被保険者は国民年金の保険料を自分で負担する必要はありませんが、そのためには第三号被保険者になるための届出が必要です。

Emergency Up!
お急ぎください

第3号被保険者特例届は
平成九年三月三十一日まで
お早めに届け出を



国民健康保険だより

国保と老人医療は助け合い

病気の早期発見・早期治療は医療費の節約にもつながります

国民健康保険では人間ドック受診の補助をしています。これにより、平成8年度はすでに70名余りの方が受診されましたが、まだ補助の枠に余裕がありますので追加申込みをお受けすることにしました。

通常は3年に一回の受診をお願いしていますが、平成6～7年に受診された方も、特別に受付をすることに致しましたのでお申し込みください。

なお、受診機関や金額などは次のとおりです。各コースとも、国保から31,000円を補助します。人間ドック受診の際は、下記費用から31,000円を差し引いた額を受診機関に支払っていただくことになります。

- ◆日赤健康管理センター
 - ◇一泊二日標準コース 61,800円
 - ◇日帰り標準コース 39,140円
- ◆成人病予防協会(送迎あり)
 - ◇日帰り標準コース 36,050円
- ◆募集定員 先着 20名



人間ドックの追加申込みをお受けします
希望者は早めにお申し込みください

申込み・問い合わせなど、詳しいことは...
高森町役場・税務課・国民健康保険係
2・11111 内線152番までどうぞ。



この日のメニュー
蓮根のハンバーグ、ヒジキのサラダ、かぼちゃのポタージュスープ、デザート（ブラマンジェ）



マタニティー料理教室 1/17

妊娠中、必ずとりたい栄養素

(一日当たり)

- ◆エネルギー 220kcal
- ◆カルシウム 1000mg(牛乳5本分)
- ◆たんぱく質 80g
- ◆ビタミンA 2000iu
- ◆ビタミンB₁ 1mg
- ◆ビタミンB₂ 1.5mg
- ◆ビタミンC 60mg
- ◆ビタミンD 400iu
- ◆鉄分 20g
- ◆ビタミンB₆ 1.5mg
- ◆ビタミンE 10mg

妊娠中の食事への気配り
妊娠中は精神的にも肉体的にも不安定になりやすく、赤ちゃんとお母さんの健康・体力維持のためにも、特に食事には充分、気を付けなければなりません。妊娠中は食事面ではバランスのとれた食生活に心がけ、特にカルシウムと鉄分を充分に摂ることが大切です。町では「マタニティー料理教室」を定期的に開講して、出産前の方々の食事面の指導や出産前の生活相談などを実施しています。一月十七日、林業総合センターでのこの教室でも、「お母さんの栄養が赤ちゃんを育てる」ことを強調して町の保健婦と栄養士が指導を行い、ハンバーグなどの料理実習を、受講者の皆さんは熱心に研修されていました。



昨年十月一日から十二月三十一日までの本年度の共同募金は百二十八万四千五百八十八円でした。皆様方の温かいご芳志に感謝申し上げます。今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。
十月一日、熊本市で行われた共同募金五十周年式典での表彰者（本誌十一月号で既報）の皆さんが、式後に熊本市・下通商店街で募金活動を行いました。参加した皆さんは、大きな声で募金協力を呼びかけ、快く募金いただいた方への感謝の心や募金活動の大変さと楽しさも体験されたようでした。

愛の共同募金 128万円集まりました



熊本市・下通で募金活動

社会福祉協議会だより

阿蘇を誇りに全国に発信



五月から町内各所で上映
地域・団体での協力をお願いします

成功させる会が発足



阿蘇の文化・自然・情愛を全国に発信 劇映画『原野の子ら』

阿蘇の自然、伝承、文化、情愛を紹介しながら、女教師淑子の目を通して「本当の豊かさとは何か」「人の幸せとは何か」をうったえる劇映画「原野の子ら」を成功させる会が本町でも発足しました。

一月十日、林業総合センターに各団体からの代表者二十三名が出席。この映画の主演の鳥飼美帆さんと郡実行委員会事務局である阿蘇町村会佐藤事務局長も出席して、入場券の販売と上映場所などの具体的な検討を行いました。

この映画の制作は、現在七割程度進んでおり、四月完成、五月上映開始を目指し、制作作業も最終段階に入ってきました。

「成功させる会」も阿蘇郡はもちろん、熊本市や菊池郡、球磨郡などにも広がり、東京など首都圏でもその完成が待たれています。地域や自治体が映画づくりに関わることはめずらしく、全国的にも注目されており、この映画を阿蘇の誇りとしてその素晴らしさを全国に堂々と発信したいものです。

今後の具体的な取り組み

- ◆前売り入場券販売
各種団体を通して販売。団体毎の割り当ては後日調整する。
- ◆上映場所
学校体育館など町内で四カ所以上。具体的な場所は会で検討して決定。
- ◆広報・宣伝活動
チラシ、ポスターなど、各団体が積極的に宣伝。

上映についてのあらまし

- ◆映画の完成
平成九年四月
- ◆映画の上映開始
平成九年五月
- ◆製作協力前売券入場券
一枚 千円
阿蘇郡内の園児・児童・中高生など、子どもは無料
- ◆高森町への前売り券
販売の協力依頼
二千枚（郡全体で二万枚）
- ◆上映場所
郡内で三十カ所程度

会の組織（協力団体紹介）

- 会長 今村博信町長
- 副会長 後藤英範町議会議長
- 高森町駐在員会、町商工会、町商工青年部、町商工婦人部、町観光協会、JA阿蘇南、JA阿蘇南青壮年部、JA阿蘇南女性の会、JA阿蘇南婦人部、町連合婦人会、町PTA連絡協議会、町文化協会、町小中学校校長会、阿蘇青年会議所（郡実行委員会委員）、町教育委員会

国体の成功のために

実行委員会が始動



今後は専門委員会での具体的な動きも

12月24日の火曜日、第54回国民体育大会、「くまもと未来国体・高森町テニス競技大会」の町準備委員会第二回総会と同実行委員会の設立総会が町林業総合センターで開催されました。

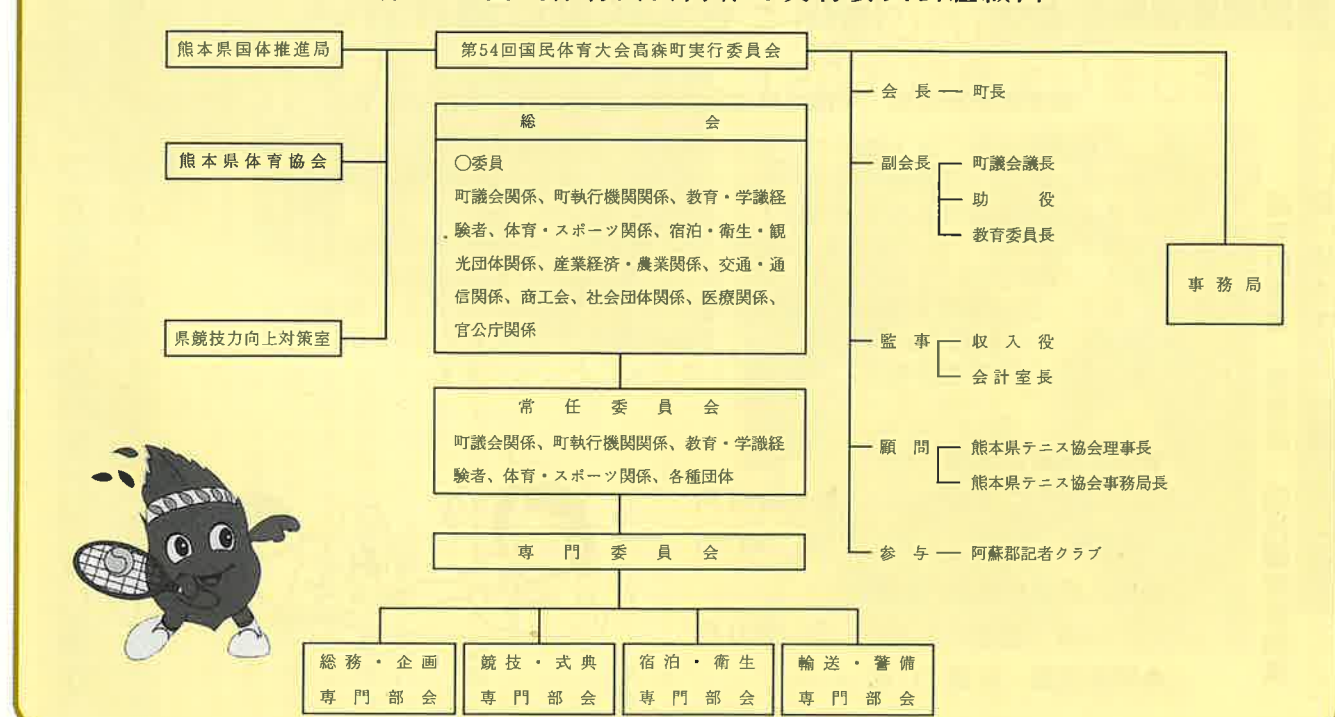
この日の出席者は町の関係団体などから約80名。これまでの活動報告と今後の具体的な活動・事業案が審議され、満場一致で承認されると共に、あらためて町実行委員会の設立について決定されました。

この大会開催のためには、あらゆる方面でまちの皆様のお力をお借りしなければなりません。大会運営面だけでなく、観光、産業、宿泊、医療・衛生、警備、交通、通信、広報、輸送など、たくさんの分野の作業があります。今後は各種専門委員会を設立して、これらの具体的な活動についての細かな検討を進めてまいりますので、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

テニス教室開催などにより、まちの皆さんの気運も高まる
(10/20のテニス講習会から、休暇村阿蘇テニスコート)
4月以降も定期的開催しますので、ご参加ください。



第54回国民体育大会高森町実行委員会組織図





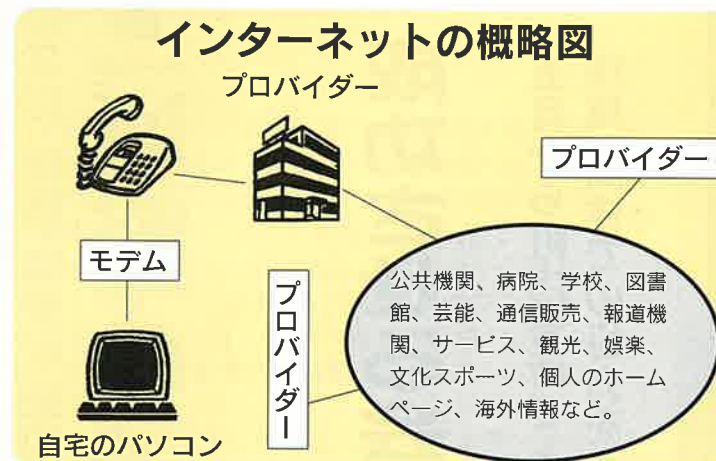
パソコンで、誰でも簡単にアクセスできる（つながる）インターネット

有効な利用法とは？

平成7年から「インターネット」という言葉がたぐさ聞かれるようになりました。それまでは「パソコン通信」という言葉が広く使われていましたが、パソコンの普及から一気にインターネットへと進んでいったという感があります。もちろんこのインターネットもパソコン通信そのものであり、新時代の通信システムと言えましょう。

また、近頃はパソコンを使わなくてもテレビやゲーム機器を使って、いとも簡単にインターネットに接続することもできます。

これからは電話機もファックスもテレビもラジオもすべてがマルチメディアという言葉にまとめられ、誰でも簡単に知りたい情報が得られる時代がやってきたのです。このインターネットを紹介しながら、その素晴らしさや問題点、今後の発展性について特集してみました。



インターネットとは？
これを難しく考える必要はありません。要するに電話回線を使った、それぞれのコンピュータ内の情報を通信網（ネットワーク）で利用し合うということであり、その中に入り込んで必要な情報を得たり、逆に情報や伝えたいことをその中に流すことが簡単にできるのです。

この歴史にも簡単にふれておきます。元々これは一九六〇年代の終わり頃にアメリカで生まれました。最初は当時高価だったコンピュータを離れた場所からでも多数で効率的に使うことを目的に、軍事研究用として使われたのが始まりです。

どうやってインターネットに入り込むか？

必要な機械・機材
この通信網はあくまで電話回線です。皆さんの自宅の電話回線にモデムという信号変換器を通してパソコンをつなぎ、通信を可能にするコンピュータプログラムソフト（以下通信ソフトという）を起動し、各種の設定を行うことにより、簡単につながります。近頃は、どのメーカーも「インターネットに簡単

につながる」が宣伝文句。とにかくやってみると意外と簡単。子どもでもやり方を教えれば簡単に操作できるでしょう。

プロバイダーとは？
必要な機械・機材とは別に、もう一つ必要なものに、プロバイダー（インターネットへの接続会社）があります。要するにこれはインターネットへの入り口であり、実際上これらの会社がインターネットを管理運営しているようなもので、ここが契約することにより、確実に回線につながるようになります。

このプロバイダーの会社はたくさんあり、携帯電話の使用形態による金額の違いと同じように、色々な料金体系があり、自分にあったものを選び、使用料を払うこととなります。（多くのその会社につながる電話代は別に必要。プロバイダーから先につながる電話代はアメリカまででも不要）

何がすごいのか？

今までのパソコン通信と機材も機械も使い方も変わっていません。では、どこが大きく違うかというと、インターネット上につながっているコンピュータとならば、どこにでもすぐに簡単につながるのである。

知りたい情報場所の電話番号がわからなくてもつながる

今までのパソコン通信はどうだったかというと、概略としての話ですが、BBSという一つの集合体に登録している者同士の通信システムだったので、他の所の電話番号がわからないと他の所にはつながらなかったのが、このインターネットを例えて言うと、広いグラウンドにたくさんの方が居て、その誰とでも話ができるというようなもので、電話番号を知らなくても、知りたい情報が次々と得られるのです。

検索機能の充実がインターネットの最大の利点

ではどうやるかというと、プロバイダーに接続（インターネットに入る）した後、通信ソフトの中の検索機能を起動して、キーボード（文字や数字などを打ち込む入力装置）から知りたい情報の「文字」を打つと、その情報があつた場合も無かつた場合もコンピュータの画面にその回答が表示されます。

その「文字」とは、例えば「国会図書館」のことを知りたいと「国会図書館」打つとそこにそのままつながりますが、「国会」や「図書館」と打つても、同じ言葉を使つたいくつもの見出しが表示され、その中を順番に見ていって「国会図書館」を見つけ出し、そこをマウス（上下左右に動く補助入力装置）でクリックする（指し示す）と、国会図書館のコンピュータに自動的に接続

インターネットとは？



三森さんのPNETに接続

本町の三森秀晴さん（村山・本誌平成7年4月号で紹介）は町の観光や産業面などを、パソコン通信で国内に広く情報を発信して、まちのPRに大きく貢献。今はインターネットを使い、その効果が更に拡大した。他に町内の愛好者は20名位。



ホワイト・ハウスにも簡単に接続。このように外国どこにでもつながるが、これから先は語学が必要。ところが英訳や和訳ソフトもあり、大体の情報伝達は可能という、ものすごい進歩が見られる。

され、何を知らたいかと問われる最初の画面が表示されます。後は蔵書数や読みたい本を探し出したりできるわけです。

阪神大震災と打てばそのことに関係する内容を持つているコンピュータを自動的に調べ出し、歌謡曲やジャズと打つたり、ホワイトハウスや歌手、作家の名前を打つてもその情報が入っているコンピュータを素早く探し出してくれるのです。

知りたい情報はどこにあるのか？

こういった知りたい情報はそれが入っているコンピュータにつながって呼び出すとは言つたものの、もう少し整理して説明すると、先ほどの国会図書館やホワイトハウスなど、国家的なものや大規模な情報は常時接続可能な状態の単独のコン

ピューターに入つて運営されていますが、民間情報のほとんどは、先に述べたプロバイダー会社のコンピュータの中に寄せ集まっているものの中から読み出されています。

これはどういうことかと言うと、情報を発信する側から考えると情報発信のためには専用の回線を持つ必要があったり、コンピュータを常時使える状態にしておかなければならないなど、費用的にも困難な面をプロバイダー会社がみんなから少しづつお金を集めて、その役割を変わって果たしているということです。

情報を発信する

これまで説明したことは知りたいことをどうやって呼び出すことができるなら、情報を送つたり

入れたりすることもできます。つまり、観光案内や飛行機の時間などのみんなが知りたいと思う情報を流すという、いわば「私設放送局」のようなことができるのです。

これはその情報があるところ（ホームページ）につながつて、その中にも書き込むこともできますし、自分でホームページを持つてその中に書き込むこともできることを言います。

このホームページは実際はプロバイダー会社のコンピュータの中の記憶装置（ハードディスク）の中にあり、検索機能でその情報が呼び出されると自動的に相手に表示されるというわけです。

また、個人宛の手紙（メール・電子郵便）もそのプロバイダーに接続した瞬間、自分のコンピュータとプロバイダーのコン

ピューターが自動的に送受信を行います。

インターネットやマルチメディアの問題点を整理・認識
無記名ゆえに無責任・無規範の情報の発信と収集への心配

このように誰もが簡単に知りたい情報を得たり、発信することができそうですが、相手が誰かわからない状況でも送受信が可能であったり、社会的に誰もが認める道徳観念と法律など、社会規範に反しない利用ができるかが問われてきています。

実体験ではない 仮想体験が及ぼす影響

その場所を実際に行かなくても、家に居ながら情報が得られる利点は素晴らしいのですが、絵や写真、音楽、音声までも情報が得られ、子どもたちのゲーム感覚の仮想体験が心配されているように、実際の体験が益々失われるのでは？と心配されています。

個人情報にいかん保護するか

情報が発信できるということ、逆に考えると誰もが入り込めるということ。数年前の映画で、少年が米国の国防省のコンピュータに入り込んだ話がありました。あの話のように、情報の出入り口にパスワード（合言葉）という鍵を何重にもかけるなど、誰も入ってはならない所への進入を防ぐ処置を怠つてはなりません。

現在、熊本県でも市町村のオンライン化（主に文書やデータの送受信）を進める計画づくりが始まっていますが、データの保守に最大の力点がおかれています。

心配する点はあるが、やっぱりインターネットの効果は大きい
しっかりと認識したいのは、ただ便利だと有頂天になるのではなく、これらの問題があることをわかつた上で、正しく使うことが大切だということです。

やみくもに使えば電話代やプロバイダー使用料が増すばかり。また、品物を見ないで買い物も出来ず、その支払いも口座振替にしたり、また、例えば原稿を執筆したとして、その原稿もインターネットを介して送れま

すし、原稿料も口座に入るといふ、人と直接会うことがなくなつたり、現金を見ることがなくなるといふ大きな社会変革を伴うこともあると、しっかりと認識しておかなければなりません。

他にも色々な変革と影響が予想されるものの、もはや民間だけでなく行政、公的機関もこのインターネット化は避けて通れないものとなつたことを再認識しなければなりません。

この広報たかもりの原稿も既にコンピュータ（DTPソフト）で作る時代。皆様のお宅のテレビの下から自動的に印刷されて出てくるのも夢の話ではなくなるかも知れません。

みんなのひろば

LOCAL EVENTS



第2回 高森町剣道大会

きびしい寒さも なんのその
気合いを入れて めーん!



各部門の優勝者

写真左から、山田悠貴、安方裕二、植田智美の各選手。

本町は柔道、剣道、弓道などの武道も盛んな町で、子どもたちの精神鍛錬を目的として各クラブでは熱心な活動が続けられています。

十二月二十一日の土曜日、町内在住の剣道愛好者が一堂に会しての大会が開催されました。

これは高森町剣道会(今村俊男会長)が主催したもので、大会には草部南小、高森中学校、高森少年剣道クラブの子どもたちが参加。会場の高森小学校体育館では、寒さを打ち負かすような気合いの入った練習と試合が進められ、交流も深められていました。

試合結果

▼中学生の部 ▼優勝 植田智美
▼二位 住吉隆臣 ▼三位 佐藤美和・田上知奈
▼小学生高学年の部 ▼優勝 安方裕二 ▼二位 植田雄貴 ▼三位 木村勇太・木津京三
▼小学生低学年の部 ▼優勝 山田悠貴 ▼二位 住吉耕太 ▼三位 松本夢恵・立山世都那

町内の剣道クラブ紹介

◆高森町剣道会 会員三十五名
会長 今村俊男
◆高森高等学校剣道部
部員七名 指導者 大橋教諭
◆高森中学校剣道部 部員七名
指導者 東家教諭
講師 渡辺、三森
◆草部南小小学校剣道クラブ
部員数二十名 指導者 福田教諭
講師 本多(阿蘇広域消防)
◆高森少年剣道クラブ
部員三十一名 指導者 大津教諭
講師 安方、木村

町出身者のお便り紹介



ふるさとへの皆さんへ

◆広報たかもりに知人の名前や顔写真が載っているのを見ると大変なつかしく、故郷への想いはひとしおです。たかもりの皆さん。今年も良い年でありますように。そして、町の発展を心からお祈りします。

大字永野原出身 中尾幸雄さん・兵庫県高砂市

ありがとうございます。これからたくさんの方の「まちの顔」を掲載、紹介していきます。お身体を大切なお過ごしください。

◆ふるさとを思い出しながら、広報たかもりを毎号楽しく拝見しています。高森町を離れて早や四十年以上になりますが、やはり生まれ育った所は良いもの。遠くに居るので尚更に想いが増します。私たちも「在京たかもり会」を創ろうと皆で会うことに話は出ますが、なかなか実現しません。二月には墓参りを兼ね、高森小の同級会に帰郷の予定で、友人たちとの再会を楽しみます。

高森町の益々の発展をお祈りします。

大字高森出身 原昭雄さん・横浜市青葉区
ありがとうございます。在京の皆さんの語らいも、そのまま「たかもり会」です。今後とも高森町をよろしくお祈りします。皆さんの交流の様子など、写真を添えて、またお便りください。

ふるさとへの熱い思い、近況報告、高森町の発展に役立つお住まいの街の紹介など、できましたら写真も添えてお寄せください。本誌で紹介いたします。
〒869-116 熊本県阿蘇郡高森町大字高森2168
高森町役場 広報たかもり

おかあさんといっしょ



美咲ちゃん(8ヶ月)
父 福丸浩司さん 母 さおりさん
(大字高森・旭通)

お母さんから

授乳や夜泣きなど、当たり前ですが生後一ヶ月までは本当に大変でした。
今は何でもよく食べて元気に育ってくれていますが、気を抜かずに夫と協力し合って、むし歯予防など特に健康面に気をつけています。
親となつてみて、子育てから私たち親も子どもと一緒に成長していくのだと実感しました。子どもの心の成長を第一に、親子で仲良く明るい家庭づくりを心がけていきたいと思っています。

「おかあさんといっしょ」
登壇者募集しています。子育ての楽しさ、難しさを語ってください。おとうさん、おじいちゃん、おばあちゃんといっしょもどうぞ。(子どもさんの年齢不問)



「燃える苦みやもた」のお題などについて「動物は友だち」登壇者募集中。



肥後狂句

霜月(阿蘇御神火会)

安請合い 高こうついとる膝枕
恐ろしか 子供ばかりの知恵で無ア
読み返し 心の糧は草枕
女性歓迎 部員の足らんラグビー部
読み返し いじめに負けた子が不憫
安請合い 背任の罪うち冠り
こぼれ話 よか味付けにした祝辞
安請合い 時価は計算外だった
またかいた 浮気は芸のこやしかい
こぼれ話 一夜に世界駆け巡り

俳句

(野尻あけび句会)

一病と仲良く老の冬ごもり
散る紅葉誘ひの滝の音に舞ふ
幾年も会はず賀状に偲ぶ影
生かされて余生たのしみ初句会
旧友の弔辞読む日の寒さかな
雪降りただしんしんもの淋し
故郷へ一夜の旅は春の雪
出されたる病院食に冬至知る

草村 鶴代
阿南はじめ
熊谷 つ子
甲斐しづ子
甲斐 康利
野尻 美穂
長友たつ子
野尻 里女

田上黙公子
林 不忘
堀田 蘇仙
馬原 馬笑
岡本 琴司
林田 一声
渡辺 雲海
浦塚 南天
松野 笑声
武田 南郷

一般の方の肥後狂句、短歌、俳句、詩などの作品もお寄せ下さい。

